


市報 やまぐち

 <http://www.city.yamaguchi.yamaguchi.jp/>

 <http://www.city.yamaguchi.yamaguchi.jp/keitai/index.html>

 koho@city.yamaguchi.lg.jp

地域で輝く山口市のこどもたち P.3
山口市内の犬にまつわるおはなし P.7

2006
1.1
January
No.6

秋穂 大海湾に昇る朝日



山口市議会議長 武田寿生

新年あけましておめでとうございます。
希望に満ちた輝かしい新年をお健やかに迎え
のこととお喜び申し上げます。

さて、県央部1市4町の合併により新しい山口市
が誕生して初めての新年を迎えました。

これまで取り組んで参りましたこの合併の実現
は、永年の目標であります県央部中核都市づくりに
向けての着実な一歩であると考えております。

また、地方分権や三位一体改革など、地方自治
体に課せられた多くの課題や多様化する市民ニ
ーズに的確に対応するため、行政運営における創
意工夫が求められている今日、合併による効果の
みならず、県都としてのまちづくりに、市民の皆
様の大きな期待を感じているところでございま
す。

山口市議会といたしましても、新県都「山口市」
のまちづくりに積極的に取り組み、真に市民の皆
様の負託に応えるよう決意を新たにしております
ので、今後とも一層のご理解とご協力をお願い
申し上げます。

賀 春



山口市長 渡辺純忠

新年あけましておめでとうございます。

すがすがしい新年を迎え、市民の皆様にも、謹
んで新年のお喜びを申し上げます。

本市は昨年10月1日に県央部1市4町による合
併をいたしました。将来にわたって持続的に発
展していくためには、都市基盤や経済基盤を備
えた中核都市の建設を進めていく必要があると考
えております。

私は、「誇りの持てる 伸びゆく美しい県都
山口の創造」を新市のまちづくりの基本理念と
して掲げ、「県央30万中核都市の建設」、「幸
せが実感できるまちづくり」そして「市民に開
かれ、市民とともに作る市政」の3つの基本方
針のもとに、将来のまちづくりを進めて参り
ます。

新市となって初めての本格的なまちづくりが
スタートをする本年、「躍動感あふれる新県都
やまぐち」の実現に向け、市民の皆様ととも
に市政に取り組んで参る所存でございますので
、市民の皆様のお指導、御鞭撻のほど、よろ
しくお願い申し上げます。新年のごあいさつ
といたします。



特集



地域で輝く 山口市のこどもたち

「受け継ぐ」「支え合う」「挑戦する」

山口市は合併後、初めてのお正月を迎えました。今年は、新たなまちづくりがいよいよ始まる年です。

これからのまちづくりの原動力となるのは、次代を担う子どもたち。そこで今回は、各地域で活躍し、輝いている子どもたちを、三つのテーマでお伝えします。彼らの夢や地域への想いを、みんなで見守り育てていきましょう。



受け継ぐ

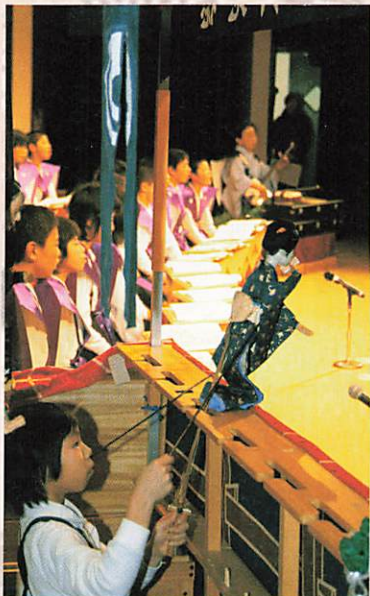
徳地人形浄瑠璃

とくじにんぎょうじょうり
いしかわまゆか
石川真由香さん



徳地人形浄瑠璃は、明治初年に文楽の遣い手らが徳地に移り住んだことをきっかけに、一人の遣い手が複数の人形を操るなど、徳地地域ならではの発展を遂げてきました。その後保存会が設立され、昭和48年には県の無形文化財に指定されています。中央小学校では平成14年度から、ふるさと学習の一環として、総合学習の時間に6年生の児童が徳地人形浄瑠璃を学んでいます。

石川真由香さんは、同小の6年生。昨年の9月から保存会の方の指導のもと、徳地人形浄瑠璃を学んできました。その成果は、昨年12月に徳地文化ホールで行われた上演会で披露されました。発表を終えて、「みんな元気よくできて、とてもよかったと思います」と満足そうに語る石川さんですが、始める前は、「下級生として、上級生の操る人形浄瑠璃を見ていたときは、あまり興味がなかった」そうです。しかし、「実際にやってみたら面白かった。きつと私たちの発表を見ていた下級生も、自分やってみれば、その面白さが分かると思います」と語る笑顔に、徳地人形浄瑠璃が子どもたちの中で、しっかりと受け継がれていく姿が感じられました。



十二の舞

にいざわりょう
にいざわりょう
新澤亮くん



「十二の舞」は、秋穂・赤崎神社で13年おきの申年霜月申の日に奉納される市指定無形民俗文化財です。その昔、社の森に住みつつき農作物を荒らしたサル退治と疫病退散の祈願を兼ねて始まったと伝えられるこの舞は、昭和48年に保存会ができ、地区の人々により継承されています。

昨年11月に行われた「十二の舞」では、大海小学校5年生の新澤亮くんと、同小6年生の宮崎剛くんが、舞間に奉納される「神楽舞」の舞人に選ばれました。奉納に向け、2人は3月からの練習にほとんど休まず励み、13年前のビデオを繰り返し見るなどして、動きを学んだそうです。熱心な練習の成果により、本番では神主姿もりりしく、立派な舞を務めました。

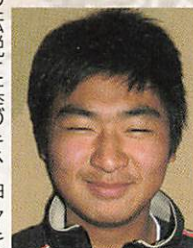
「お囃子や動きは繰り返しが多く、順番を間違えないように覚えるのが大変でした。当日はお父さんも横笛を吹いて参加したのですが、最近自分もその笛を吹けるようになったのがうれしいです」と宮崎くん。「本番前に、地域の秋まつりでも舞を披露しました。見に来てくれた友達の前でも上手に舞うことができ、うれしかったです」と新澤くん。



大海小学校では、総合学習でこの舞について学び、郷土愛を醸成しています。これからも地域の宝として、次代に受け継がれていきます。

岩戸神楽

むらたあきのり
むらたあきのり
村田章徳くん



岩戸神楽は、小郡岩屋地区の熊野神社の秋の例祭で毎年奉納されている市指定無形民俗文化財です。氏子の安全と穀物の豊作を祈って、保存会員によって舞われる神楽は、「天の岩戸」の伝説に基づき、神々を個性的に表現しています。

村田章徳くんは、小郡中学校の3年生。彼がお父さんの勧めで岩戸神楽に参加したのは、小学4年生のとき。始めは気が進まなかったそうですが、参加しているのは弟妹や顔見知りの地区の子どもら。現在では「だいが慣れた」と語る彼からは、頼もしさが漂います。毎年10月のお披露目の直前2週間、毎晩稽古が続きます。本番のときは「失敗しないように」とだけ考えているそうです。その表情は真剣そのものです。今年、村田くんが友達と二人で舞ったのは「花三重」と呼ばれる神楽の中盤に行われる舞で、二人の舞方の左右一対の動きが求められるもの。それだけに呼吸が合った時の美しさもすばらしいものがあります。

「伝統を守っていきたい」という地域の人たちの思いがあるから、岩戸神楽はこれまで続いている」と村田くんは言います。「地域の誰もが知っている岩戸神楽に関わられて、少しうれしい」と、照れながら語ってくれた彼の笑顔からは、地域のあたたかさや伝わりました。



た。



支え合う

ボランティア コーディネーター

阿知須中学校3年生の福本早紀人くんは、同校ボランティアコーディネーター（VC）のリーダーとして、みんなから着実な仕事ぶりで信頼されています。



ふくもと さきと
福本早紀人くん

VCのメンバーは、現在約50人。生徒会活動の一環として、ボランティア活動に関心のある生徒が自発的に集まり、施設への車椅子の寄贈や、地域での清掃活動など、さまざまなボランティア活動を行っています。またVCは、自分たちが活動を行うだけでなく、他の生徒からボランティア活動への参加を募り、活動にあたっての計画作りや指示などを行います。

福本くんは、VCに参加した理由を「1年生のころに『あじすぶれあいまつり』で車椅子の方の介助に参加し、お年寄りとうまくコミュニケーションがとれ、こんな笑顔をもっと見たいと思ったから」といいます。他のメンバーも、VCの投げかけに応じて体験したボランティア活動にやりがいを感じ、参加した人が多いそうです。VCを通じたボランティアの輪の広がりを感しました。



「進学する高校には、VCのような団体はないかもしれませんが、ボランティア活動の輪を、いろんなところでもっと広げていきたい。」

ジュニアリーダー

有吉由希恵さんは、ジュニアリーダー（ジュニア）として活躍する山口県鴻城高校の1年生。県のジュニアにも、市代表として参加しています。



ありよし ゆきえ
有吉由希恵さん

ジュニアとは、中学・高校生の子ども会会員のことで、下級生の面倒をみるなど、子どもたちの手による子ども会運営を目指した活動を行っています。

「参加のきっかけは、地域のお祭りでのジュニアの活動のお手伝い。とても楽しかったので、すぐに入会しました」という有吉さん。ジュニアは自発的な参加者で組織されており、秋穂はその活動の熱心さから、県内でも高い評価を受けています。

ジュニアには、県や国単位で話し合いの進め方や子どもとの遊び方などを学ぶ研修会があります。「研修会を通して、各地に友達ができてうれしい。また、子どもへの接し方が学べ、将来教師を目指す私にとって意義ある経験となりました。」



企画・運営を手がけた「クリスマス会」も無事成功し、今はホッと落ち着いたそうです。ジュニアに懸ける想いは尽きることがありません。「毎月の会合でもっと意見を出し合い、内容の濃い活動をしたい。そして、私たちの姿を見て『ジュニアになりたい』と思ってくれる子が一人でも増えてくれたら」と力強く語ってくれました。

ボランティア

昨年11月の「嘉川文化祭」に、川西中学校からボランティアとして参加した田邊記彰くん（同中2年生）。同中からの「嘉川文化祭」へのボランティア参加は今年で2年目で、彼は初年度から参加しています。「母親が嘉川地区で子育て支援の活動をしていたため、小学3年生のころから、夏休みなどに公民館や子ども会の行事によく参加していました。地区の行事は好きなので、嘉川文化祭のボランティアでも今までの経験が生かせるのでは、と進んで参加しました」と田邊くん。



たなべ ふみあき
田邊記彰くん

当日は、同じ川西中の下級生たちと一緒に「嘉川子ども館『じゅっぽっぽ』のちびっ子コーナーを担当。また、最近では、『嘉川赤ちゃん大集合』という行事に参加し、生後3カ月の赤ちゃんのお世話も経験するなど、いろいろな行事に参加しています。

「小さな子どもたちを見ると、自分の小さいころを思い出して、懐かしいような感じがします。昔から小さい子どもの相手をする機会を多く経験しているのです。一緒に楽しむながらできますし、これからも機会があればボランティアに参加させてもらおうと思っています。子どもが参加できる地区の行事が今まで以上に盛んになればいいですね」と優しいさっぱいの笑顔で語ってくれました。



「小さい子どもたちを見ると、自分の小さいころを思い出して、懐かしいような感じがします。昔から小さい子どもの相手をする機会を多く経験しているのです。一緒に楽しむながらできますし、これからも機会があればボランティアに参加させてもらおうと思っています。子どもが参加できる地区の行事が今まで以上に盛んになればいいですね」と優しいさっぱいの笑顔で語ってくれました。



挑戦する

ほうがん投げ 砲丸投

河本昌也くんは、八坂中学校陸上部の3年生。最初は短距離走をやっていたが、1年生の夏、「砲丸投を試しにやってみたら、思いがけずいい記録が出た



かわもとまさなり
河本昌也くん

のがきつかけで転向。「努力した分結果につながることを楽しくて、練習に打ち込むようになった」そうです。現在は、部活だけではなく、市外のアスレチッククラブにも所属し、高校生や大学生からアドバイスを受けたり、家でも筋力トレーニングをしたりするようになりました。「こんなにまじめに練習するなんて」と自分が一番驚いています」と照れていましたが、努力は着実に実り、現在は中学校男子砲丸投(5キログラム)の県記録保持者。昨年の10月に横浜で開催されたジュニアオリンピックには、県代表として出場しました。「全国大会で他県の選手と友達になれました。陸上を通して部活の仲間以外にも交流の輪が広がっていくのが楽しい」とうれしそうに大会の感想を語ってくれました。

目標は、「高校でも陸上を続けてインターハイに出場。そして、平成23年に山口県で開催される『第66回国民体育大会』にも出場すること」だそうです。これから河本くんの挑戦は続きます。



柔道

山見ちひろさんは、「小郡柔道スポーツ少年団」に所属する川西中学校の3年生。小柄ですが、柔道着を着たその姿からは買祿が漂います。



やまみ
山見ちひろさん

彼女は、小学校4年生から同少年団で柔道を始めました。昨年、周南市で行われた県大会の48キログ級では見事優勝を果たし、名古屋市で開催された全国大会にも出場しました。

試合を振り返って、「全国から集まった強豪たちの雰囲気には圧倒されました。1回戦はシードで、実際には2回戦から試合に臨み、ベスト16まで残ることができました。満足のいく試合もありましたが、実力が出し切れなかった試合があったのが心残りです」と語る山見さん。

今の自分の課題を「得意技が少なく攻撃がワンパターンになってしまっているところ」だと分析しています。「柔道は高校生になってからも、ずっと続けていきたいですし、技のバリエーションと得意技を増やし、来年の全国大会にも出場して、もっと上を目指したいです」。

彼女が尊敬しているのは、自分と同じ階級で世界を舞台に活躍している「ヤワラちゃん」こと谷亮子選手。彼女を目標として、山見さんは日々稽古に励んでいます。



金管バンド

「ステージに上がる瞬間が一番楽しい」と語ってくれたのは、「井関小学校金管バンドクラブ」で部長を務める6年生の藤田麻矢さん。



ふしたまや
藤田麻矢さん

クラブで4年間担当した小型のトランペットに似た楽器「ルネット」について、「ルネットは主旋律を担当することが多いから、失敗すると目立つ」と笑顔で話します。

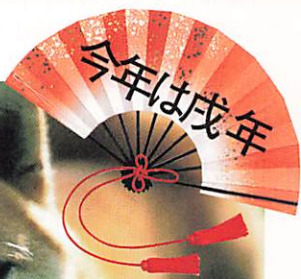
同クラブは、昨年の「厚狭地区アンサンブルコンテスト」に金管八重奏で出場して、金賞と最優秀賞を受賞しました。「子どもたちに表現する力を身に付けてもらいたい」という顧問の先生の理念のもと、地域のイベントで演奏したり、施設への慰問演奏を行うなど、大会や学校以外で発表することにも力を入れています。

「ステージに上がる前は、かなり緊張しますよ」という藤田さんですが、演奏が始まると「客席は気にならず、楽器と指揮者に集中できます」と演奏への集中力の高さがうかがえます。

4年間続けた金管バンドで、藤田さんは大きな自信を得たようです。「小学校では音楽を頑張ったので、中学生になったら、もっと新しいことに挑戦してみたい」と目を輝かせます。

「みんなで頑張った金管バンドの活動は、とても思い出になると思います」。





山口市内の犬にまつわるおはなし

犬は人間が初めて家畜とした動物で、人の生活と深く結びついてきました。狩猟・愛がん・牧畜用から、警察犬、盲導犬、聴導犬、介助犬などとしても活躍しています。また、古来より犬は、邪神や悪霊から人間を護る力があると信じられ、信仰や伝説等にも数多く登場します。市内の犬にまつわる話を、いくつかご紹介しましょう。



山頭火と犬のふれあいが生んだ「山頭火鍋」

漂泊の俳人 種田山頭火にまつわるお話に、「お腹を空かせた山頭火が空を見上げたところ、鴨が飛んでいた。そこに餅をくわえた犬が通りかかり、餅を落とすといった。山頭火は、その餅を鍋に入れて、野良猫と分け合って食べた」というものがあります。



主を慕った犬の伝説「犬鳴の滝」

犬鳴の滝は、仁保川の上流、仁保地区の大島と一ノ瀬の境から西へ約500メートルほど入った山中にあります。滝の名の由来は伝説からきています。滝つぼに落ちて亡くなった主人を思い、嘆き悲しんだ犬が三日三晩滝の上で鳴き続けた後、滝つぼに身を投げて主の後を追ったことから、この名が付いたといわれています。現在、滝までの道のりは遊歩道が整備されており、自然を楽しみながら滝の近くまで行くことができます。



この話にヒントを得て生まれたのが、小郡のまちおこし料理「山頭火鍋」。平成2年、公募により誕生したこの鍋は、鴨肉と餅が入った、みそと醤油のブレンドだしのおいしい鍋です。毎年、体育の日に開催されるイベント「小郡レクリエーション大会」では、参加者へ鍋が振る舞われるのが恒例となっており、人気を博しています。



邪気から護る「狛犬」

神社に置かれていた狛犬は、もともと高麗の犬(外国の犬)という意味とされ、犬に似た想像上の獣で、魔除けの力があるといわれています。



秋穂の神社にみられる狛犬は、江戸時代に歴代長州藩主に仕えて活躍した著名な石工、一宝家(秋穂二島)の作によるものが多く、写真の秋穂正八幡宮にある狛犬もその一つ。一宝家はその他に、山口大神宮などの狛犬も手掛けています。



安全を守る「警察犬」

毎年阿知須地区で、警察犬の技能を測る競技会や、嘱託警察犬を決定する資格審査が開催されています。審査については、犯人役が歩いた道を追尾する「足跡追及」と、犯人役の臭いが付いた布を選別する「臭気選別」の2種目が行われます。

警察犬には2種類あり、現在県内では、警察本部が飼育する直轄警察犬2頭と民間により飼育訓練されている嘱託警察犬21頭が登録されています。犯人の追跡や行方不明者の捜索などに活躍しています。山口県の嘱託警察犬は、近年全国規模の競技会で上位の成績を残しています。



目となり心の支えとなり…「暮らしに欠かせない犬」

犬は、その賢さと忠実さから、人のためになる働きもしています。湯田地区に在住の原田美智枝さんは、「ブリーダー」という名の盲導犬と生活しています。「盲導犬は英語で訓練を受けるのですが、特にディーは外国生まれで、私の指示が聞き慣れた発音とは違い、初めは戸惑ったようです。でも今ではすっかり私になつてくれ、私の目の代わりを務め、世界を大きく広げてくれました。ほかに母犬は、耳の不自由な方を助ける聴導犬、手足が自由に動かない方の動作を助ける介助犬、そして、人の心を癒す効果があるとして、アニマルセラピー(動物介在療法)にも用いられています。市内にある福祉施設のグループホームでは、入居者の心の癒しのためにと一匹の犬を飼い、入居者の方々が順番に散歩をさせるなど、お世話をしています。「入居者にとって、犬は子どものような存在のようです。毎日犬の世話をすることで体を動かし、生活に張りが出て、表情が明るくなされた方もいらっしゃいますよ(施設担当者)」。



「入居者にとって、犬は子どものような存在のようです。毎日犬の世話をすることで体を動かし、生活に張りが出て、表情が明るくなされた方もいらっしゃいますよ(施設担当者)」。



お知らせ

水道局の嘱託職員を募集します

- 採用予定人数 1人
- 採用期間 4月1日～12月31日
- 業務内容 貯水槽施設の調査・台帳作成
- 対象 昭和20年4月2日以降生まれの市内在住者
- 受付期限 1月31日(火)

申請 市販の履歴書(A4)に写真を貼付し、必要事項を記入・押印の上、月～金(祝日を除く)の午前9時～午後5時の間に水道局南部事業所(小郡総合支所内小郡下郷609・1 ☎083・973・8184)に本人が持参

年金相談をご利用ください

山口社会保険事務所では、年金相談の平日の相談時間を延長し、休日の相談窓口を開設します。

併せて、国民年金保険料の納付相談も行いますので、お気軽にご利用ください。
【平日の相談時間延長：午後7時まで】

相談日 1～3月の毎週月曜日
※ただし、1月の第一週は4日(水)、第二週は10日(火)

【休日の相談窓口開設：午前9時30分～午後4時】
相談日 1月14日(土)、2月11日(土)、3月11日(土)

山口社会保険事務所(吉敷3245・10) 年金相談について ☎083・9222・5664
納付相談について ☎083・9222・5662

休日わくわくどきどき教室 小正月フェスタ

昔ながらの行事や、もの作りの楽しさを体験しませんか。申し込みは不要です。暖かい服装でお越しください。

日時 1月15日(日) 午前10時～正午
場所 阿知須小学校運動場
内容 どんど焼き、昔の遊び(笛作り、羽子板、こま、竹とんぼ)など

※どんど焼きは荒天時中止。お正月飾りのプラスチックや針金、みかんなどは、必ず外した上でお持ちください。

参加費 無料(昔の遊びは一部材料費実費)

阿知須地域子ども教室実行委員会(阿知須公民館内) ☎0836・65・2022
aj-skyoiku@city.yamaguchi.jp

市歴史民俗資料館 臨時休館のお知らせ

展示替えのため、臨時に休館します。
期間 1月16日(月)～19日(木)
※1月20日(金)からは、企画展「山口お宝展」を行います。

市歴史民俗資料館 ☎083・924・7001

「移動市長室」を開催します

市民のみなさんが日ごろ感じている市政への疑問や質問、提案について、市長が直接お答えします。自由な対話形式の座談会で、特に事前申し込みは必要ありません。みなさんのご参加をお待ちしています。

日時	場所
1月10日(火) 午後1時45分～4時	阿知須総合支所(玄関ロビー)
1月11日(水) 午前9時45分～正午	小郡公民館(1階サロン)
1月12日(木) 午前9時45分～正午	秋穂総合支所(玄関ロビー)
1月13日(金) 午後1時45分～4時	徳地総合支所(玄関ロビー)

※時間中はいつでも出入りできます。お住まいの地域に関わらず、いずれの会場でもご参加いただけます。

市広報広聴課 ☎083-934-2753
なお、当日は各総合支所総務課まで/小郡 ☎083-973-2411 / 秋穂 ☎083-984-8021 / 阿知須 ☎0836-65-4111 / 徳地 ☎0835-52-1112

1月の休日当番医 一部変更について

変更内容 吉南医師会(外科)
1月8日(日) 変更前：小林外科医院 / 変更後：阿知須同仁病院 ☎0836・65・5555
1月22日(日) 変更前：阿知須同仁病院 / 変更後：小林外科医院 ☎083・973・1515

新年市長挨拶

山口ケーブルテレビ(12チャンネル)
1月1日(日)～8日(日)
午後2時45分～3時

編集後記

新年を迎え、また新たな気持ちで市報づくりに励みます。もっとセンスを磨かねば! (寛) 今年が何回目の成年か考えたくない。気が付けば愛車も一回り乗り込んでしまった(は) 今年もは成年。老後の事を考えれば少子化に少しでも歯止めがかかればと願っています(た) 今年の抱負。「住民みんなが広報マン」の気持ちで、地域活動に一つ参加する(る) 「犬にまつわる話」のわんこ写真が、昔飼っていた犬に似ていて少しウレシイ(魔女っ子) 定番「今年の抱負」も毎年語るとネタがなくなるもんです。非常に困った(ねーた) 日の出撮影の姿はどこから見ても立派な不審者。寒さと人目を気にしながら頑張りました(のーた)